

「木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査」

操作の手引き・記入例

1. 協会HP「ニュースーお知らせ」掲載記事「第7回木造軸組工法における国産材利用の実態調査ご協力をお願い」から「国産材利用実態調査回答用紙 協会1種正会員(住宅会社)用」のエクセルファイルをダウンロードしてください。 <https://www.mokujukyo.or.jp/>
ファイル名の後ろに「-貴社名」を記入し『名前をつけて保存』してください。

2. 入力

- ① 黄色のセル で表示されている部分に数値を入力してください。

(2)地域別年間 供給住宅数	北海道	東北	関東	北陸・甲信越

- ② ☐ の部分は該当するものを選択してクリックしてください（複数回答可）。

(5)プレカット工場への 木材納入方法 (複数回答可)	☒ ①購入先を指定
	☒ ②商品・仕様・品質を指定
	☐ ③プレカット工場に一任
	☐ ④加工のみプレカット工場に発注(賃加工)

- ③ ☐ の部分は主なものを一つ選択してください。

①管柱	☒ 105mm	☐ 120mm	☐ 135mm以上
②通し柱	☒ 105mm	☐ 120mm	☐ 135mm以上
③土台	☐ 105mm	☐ 120mm	☐ 135mm以上
④大引	☐ 90mm	☐ 105mm	☐ 120mm以上

- ④ 赤色のセル は特に重要な項目です。必ず入力をお願いいたします。

部位	構造用合板						
	全戸の中で 使用している 戸数の割合	1住宅あたり の平均使用 量	国産材(※4)				異
			ヒノキ 100%	スギ 100%	カラマツ 100%		
①床		m ³					
②外壁		m ³					
③屋根		m ³					

- ⑤ 合計欄のセルの色がピンクになっている場合は、合計が100%になっていないので、100%になるように数値を入力してください。

(2)基準寸法 (モジュール) ／戸数割合	約910mm		1,000mm(メートル)		その他 (mm)	合計	
	50	%	20	%		70	%

NG

合計が100%になるとセルが水色になります。

(2)基準寸法 (モジュール) ／戸数割合	約910mm		1,000mm(メートル)		その他 (mm)	合計	
	80	%	20	%		100	%

OK

※紙のアンケート表では最初から「100%」と記載されています。
合計が100%になるように各欄に割合を記入してください。

- ⑥ 合計欄のセルが無色の場合は、記入した数値の合計が自動計算されます。

※紙のアンケート表では、ご自身で合計をご記入ください。

(2)地域別年間 供給住宅数	北海道	東北	関東	北陸・甲信越	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	年間供給住宅数 合計
	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	0 戸

3. データの送信

入力が終了したら上書き保存し、メールに添付して送信して下さい。

■回答データ送信先

集計担当会社（株式会社オPCODE研究所）宛

メールアドレス info@opcode-labo.com

上記のメールアドレスのリンクをクリックするとメールが立ち上がります。

情報セキュリティの観点から、ファイルはパスワードの設定をおすすめいたします。

■問合せ先

（一社）日本木造住宅産業協会 資材・流通部（担当：吉田・赤坂）

東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビルWEST棟2F

TEL:03-5114-3014 FAX:03-5114-3020

記入例

木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査に関するアンケート
2023年度の戸建て住宅完工実績調査

回答先

FAX:03-5114-3020 または メール:info@opcode-labo.com
(一社)日本木造住宅産業協会 資材・流通部 あて

ご回答期限

2024年10月15日(火)

※アンケートにご回答の上、2024年10月15日(火)までにFAXまたはメールにてご返信ください。

なお、回答内容の不明点等について連絡させていただく場合があります。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

<アンケートご回答の注意>

・2023年度(令和5(2023)年4月～令和6(2024)年3月)の**木造戸建て住宅完工実績**でご回答ください。貴社の決算期によっては、1月～12月等の実績でも構いません。

・国産のスギやカラマツと外国産のベイマツなど異樹種混合で構成されている集成材、合板、LVLについては、**一部でも国産材が使用されているものは国産材として下さい。**

- : 入力するセル(数字入力またはチェック)
■ : NG 合計が100%になっていません。
■ : OK 合計が100%になるとセルが水色になります。
■ : 重要な項目なので必ず入力してください

■問合せ先・回答送付先：(一社)日本木造住宅産業協会 資材・流通部 担当:吉田・赤坂

住所：東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビルWEST棟2F

TEL:03-5114-3014 FAX:03-5114-3020 e-mail: info@opcode-labo.com

貴社名	株式会社ABC	TEL	00-0000-0000
部署名	住宅事業部	FAX	00-0000-0000
回答者ご氏名	〇〇 〇〇	E-mail	mokuzo@abc.com
住所	東京都港区六本木1-7-27 ABCビル		

1 会社全体の供給住宅について(戸建て住宅について)

想定回答者: 渉外・総務担当(窓口)

(1)年度区分	令和	5	年	4	月	～	令和	6	年	3	月	貴社の決算期によって、1月～12月等の実績をご記入いただく場合はここに入力してください。				
(2)地域別年間供給住宅数	北海道		東北		関東		北陸・甲信越		東海		近畿		中国・四国	九州・沖縄	年間供給住宅数合計	
		戸	5	戸	55	戸		戸		戸		戸		戸	60	戸

(2)-2 複数地域に住宅を供給している会社におたずねします。使用する樹種等の仕様は統一されていますか。

☐ 全地域統一	☒ 地域ごとに異なる
-----------------------------	---

(3)住宅の施工形態(本体工事)／戸数割合	自社(含グループ会社)	提携施工会社	左記以外の施工会社	『左記以外』の内容をお書きください。	合計
	100 %	%	%	()	100 %

(4)住宅の注文形態／戸数割合	戸建て注文住宅	戸建て建売住宅	合計
	100 %	%	100 %

2 供給住宅の概要について

想定回答者: 渉外・総務担当(窓口)

(1)1住宅あたりの 平均延べ床面積	110.00				m ²							
(2)基準寸法 (モジュール) ／戸数割合	約910mm		1,000mm(メートル)		その他 (mm)	合計						
	100	%		%		100	%					
(3)工法(接合部) ／戸数割合	在来仕口工法		金物工法(※1)		その他 ()	合計						
	70	%	30	%		100	%					
(4)工法(その他) ／戸数割合	通し柱の無い工法		根太の無い工法		水平力の支持(壁面)	筋かいのみ	面材のみ (石膏ボード含)	筋かい・面材 併用	ラーメン構造			
	0	%	100	%		%	60	%	40	%		%
(5)建物の階数 ／戸数割合	平屋建		2階建		3階建		合計					
	5	%	75	%	20	%	100	%				
(6)構造計算方法 ／戸数割合	仕様規定(壁量計算・N値測定・耐力壁バランス)				許容応力度計算等				合計			
	80	%	20	%	100	%						

※1:金物工法は、仕口工法と併用する工法で、「デックワチ」などがある。部分的に金物を使用するものは金物工法とする。

※1: 金物工法は、仕口部を金物で接合する工法で、「テックワン」「SSマルチ」などがある。部分的な補強として金物を使用するものは含まない。

記入例

3 各部位の木材使用について

想定回答者: 調達担当

(1) 1住宅あたりの令和5年度の平均木材使用量を

こここの値は非常に重要です。必ず入力してください。
平均が難しければ、平均的な物件の値でも結構です。

平均木材 使用量 (※2)	①管柱	②通し柱	③土台	④大引	⑤母屋、棟木	⑥横架材 (※3)	⑦間柱	⑧筋かい	⑨その他 羽柄材	①～⑨ 合計
	3.5 m ³	0.5 m ³	0.9 m ³	0.4 m ³	0.9 m ³	7.0 m ³	1.8 m ³	1.1 m ³	4.2 m ³	20.3 m ³

※2: 木材使用量は必ず入力してください。

※3: 土台・大引・母屋・棟木以外の木材を示す。

→ (1)～2 横架材における国産材の利用比率は平均的に低くなっています。横架材に国産材を使用しない
なぜだとお考えですか。あてはまる項目を選択してください。(複数回答可)

「その他の羽柄材」は、
根太、胴縁、垂木、貫を示しています。

☐	①必要な強度の国産製材が入手できない。	☐	④JAS材が安定的に入手できない	☒	⑦外国産材に比べて品質や寸法にばらつきがある
☒	②外国産材の方が安定的に調達できる。	☒	⑤同じ品質・強度の外国産材より価格が高い	☐	⑧消費者のニーズが低い
☒	③乾燥材が安定的に入手できない	☐	⑥外国産材よりも価格変動が大きい	☐	⑨その他 ()

ここでは、縦の数値の合計が100%となります。

(2) 使用している木材について、各部位
(材積ベース(m³))でのパーセンテージをご記入ください、各部位ごとの合計が100%となるようご記入ください。)

		①管柱	②通し柱	③土台	④大引	⑤母屋、棟木	⑥横架材	⑦間柱	⑧筋かい	⑨その他 羽柄材
国産材	製材	ヒノキ	%	50 %	%	100 %	%	%	%	%
		スギ	%	5 %	%	%	%	%	%	%
		その他	%	%	%	%	%	%	%	%
	集成材	ヒノキ	50 %	45 %	%	%	%	%	%	100 %
		スギ	50 %	%	%	%	%	%	50 %	%
		カラマツ	%	%	%	%	%	%	%	%
		その他 (異樹種混 合含む)	%	%	%	%	%	%	%	%
外国産材	製材	ベイマツ など	%	%	%	%	%	100 %	50 %	%
		ベイマツ	%	%	%	%	%	%	%	%
	集成材	レッドウッド	%	%	100 %	100 %	100 %	%	%	%
		ホワイト ウッド	%	%	%	%	%	%	%	%
		その他	%	%	%	%	%	%	%	%
	その他 (LVL含む)	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	合計(縦の数値の合計 が100%となります)	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %

▼この欄は記入不要です。

国産材 比率	国産材	100 %	100 %	0 %	100 %	0 %	0 %	0 %	50 %	100 %
	外国産材	0 %	0 %	100 %	0 %	100 %	100 %	100 %	50 %	0 %

記入例

(3)部材のサイズ 最も多く使っているサイズを一つ選択してください。

①管柱	☒ 105mm	☐ 120mm	☐ 135mm以上
②通し柱	☐ 105mm	☒ 120mm	☐ 135mm以上
③土台	☒ 105mm	☐ 120mm	☐ 135mm以上
④大引	☐ 90mm	☒ 105mm	☐ 120mm以上
⑤母屋	☐ 90mm	☒ 105mm	☐ 120mm以上
⑥			
⑦			

全戸の中での使用割合です。100戸のうち、50戸に使用している場合は50%です。「パーティクルボード」「構造用パネル」「MDF」「無機系面材」「製材」との合計が100%になるはず(同じ建物の中に併用する場合を除き)。

(4)構造用面材(床・外壁・屋根)

この値も非常に重要です。単位は m^3 です。枚数ではありませんので注意してください。「パーティクルボード」「構造用パネル」「MDF」「無機系面材」「製材」についても同様です。

されているものは国産材として下さい。フェイスバックに外してください。国産材か外国産材が分からない場合は、

部位	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量	国産材					外国産材		不明		合計	
			ヒノキ 100%	スギ 100%	カラマツ 100%	異樹種 混合		針葉樹	広葉樹				
①床	100 %	3.0 m^3						100 %				100 %	
②外壁	100 %	3.5 m^3						100 %				100 %	
③屋根	5 %	0.1 m^3						100 %				100 %	

部位	パーティクルボード		構造用パネル(OSB)		MDF(木質中質繊維版)		無機系面材(タイル、モイス等)		製材(荒床材、きずり、野地板)	
	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量	全戸の中での使用している戸数の割合	1住宅あたりの平均使用量
①床		m^3		m^3		m^3		m^3		m^3
②外壁		m^3		m^3		m^3		m^3		m^3
③屋根		m^3		m^3		m^3		m^3	95 %	1.0 m^3

(5)内装用ムク板材(床・壁)(※5)の利用状況についてご記入ください。(ムク材を標準仕様としている場合)

内装部位	全戸中でムク板材を使用している戸数の割合	1住宅平均使用量	国産材				外国産材		合計	
			ヒノキ	スギ	広葉樹	その他の樹種				
①床	80 %	3.3 m^3							0 %	
②壁	20 %	0.8 m^3							0 %	

※5: 無垢フローリング(床)、羽目板(壁)等を指す。複合フローリング、壁材は除く。

この値も単位は m^3 です。
使用平米数に厚みを掛けて、立米数をご記入ください。

4) 木材の調達について

想定回答者: 調達担当

(1)-1 木材の購入量 ＜国産材＞ (合板は含みません)	製材			集成材			合計	
	JAS材	非JAS材	小計	JAS材	非JAS材	小計		
	95 m^3	150 m^3	245.0 m^3	250 m^3	0 m^3	250.0 m^3	495.0 m^3	

(1)-2 木材の購入量 ＜外国産材＞ (合板は含みません)	製材			集成材			合計	
	JAS材	非JAS材	小計	JAS材	非JAS材	小計		
	40 m^3	0 m^3	40.0 m^3	640 m^3	0 m^3	640.0 m^3	680.0 m^3	

(2)各部位の木材の購入先の割合(金額比率)をご記入ください。

	プレカ ット 会社	メーカ ー (製材会社等)	商社	問屋	小売店	FC本部	その他 ()	合計	
(2)-1構造材	100 %							100 %	・構造材は柱・土台・大引・母屋・棟木・横架材を指す
(2)-2羽柄材	100 %							100 %	・羽柄材は間柱・根太・筋交い・垂木・貫などを指す
(2)-3下地材		10 %	80 %	10 %				100 %	・下地材は床・壁・屋根用の合板及びムク板を指す
(2)-4内装材			100 %					100 %	・内装材は床・壁用のムク板材のみを指す

(3)購入先が同一品目に複数ある場合の理由 (複数回答可)	☒ ①安定供給	☐ ②価格の維持	☐ ③品質の確保
	☐ ④地域分け	☒ ⑤物流コスト	☐ ⑥その他

(4)接合部(プレカ ット、継手、仕口)の加工形 態の割合(戸数比率)	自社プレカ ット工場	グループ会社 のプレカ ット工場	他社プレカ ット工場	手刻み	その他 ()	合計
			95 %	5 %		100 %

記入例

(5)プレカット工場への 木材納入方法 (複数回答可)	☐	①購入先を指定	
	☒	②商品・仕様・品質を指定	
	☒	③プレカット工場に一任	
	☐	④加工のみプレカット工場に発注(賃加工)	

(6)国産材を 使用する理由 (複数回答可)	☐	①外国産材よりも安定的に調達できる。	☒	⑦消費者のニーズが高い(地球にやさしい・・・など)
	☒	②乾燥材が入手しやすくなった。	☒	⑧他社との差別化につながる
	☐	③JAS材が入手しやすくなった。	☐	⑨脱炭素・SDGs推進による企業価値の向上
	☐	④外国産材よりも寸法や品質が安定している	☐	⑩地産地消の推進による地域貢献
	☐	⑤外国産材に比べて価格が安い	☐	⑪国産材を使用すると補助金が出る
	☐	⑥外国産材よりも価格が安定している	☐	⑫その他 ()

(7)国産材を 使用しない理由 (複数回答可)	☒	①外国産材の方が安定的に調達できる。	☒	⑥外国産材よりも価格変動が大きい
	☐	②乾燥材が安定的に入手できない	☐	⑦外国産材に比べて強度・品質が劣る
	☐	③JAS材が安定的に入手できない	☐	⑧外国産材に比べて品質や寸法にばらつきがある
	☐	④国産材のFSCやSGEC、PEFCなどの森林認証材が入手できない。	☒	⑨消費者のニーズが低い
	☐	⑤同じ品質・強度の外国産材より価格が高い	☐	⑩その他 ()

(8)構造材でJAS材を使うことを意識していますか。

☒	している	☐	していない
----------------------------------	------	-----------------------	-------

(9)今後、特に重点的に国産材の使用量を増やしたい部材は何か？(上位3つまで。優先順に1～3を記入して下さい。)

管柱	通し柱	土台	大引	母屋・棟木	横架材	間柱	筋かい	その他羽柄材
1		2			3			

(10)木材(特に国産材)の調達についての現状や課題についてのご意見があればお書き下さい。

--

5 ウッドショックの影響について

想定回答者: 調達担当

(1)ウッドショック(令和2～3年)の時期に、それ以前と比べて自社での国産材利用の割合はどのように変わりましたか。

☒	増えた	☐	減った	☐	変わらなかった
----------------------------------	-----	-----------------------	-----	-----------------------	---------

(2)ウッドショック時点(令和3年)と比較して、令和5年では、国産材利用の割合はどのように変わりましたか。

☐	増えた	☐	減った	☒	変わらなかった
-----------------------	-----	-----------------------	-----	----------------------------------	---------

(3)木材の調達状況は、ウッドショック時点(令和3年)からどのように変化しましたか。

(3)-1 国産材	☒	入手しやすくなった	☐	入手し難くなった	☐	変わらない
(3)-2 外国産材	☒	入手しやすくなった	☐	入手し難くなった	☐	変わらない
(3)-3 合板	☐	入手しやすくなった	☐	入手し難くなった	☒	変わらない

(4)木材価格は、ウッドショック時点(令和3年)からどのように変化しましたか。

(4)-1 国産材	☐	高くなった	☒	安くなった	☐	変わらない
(4)-2 外国産材	☐	高くなった	☒	安くなった	☐	変わらない
(4)-3 合板	☐	高くなった	☐	安くなった	☒	変わらない

(5)今回のウッドショックを踏まえて、中長期的に国産材の利用拡大に取り組みたいですか？

☐	国産材の利用を拡大したい	☒	現状の利用割合を維持したい	☐	国産材の利用拡大を意識していない
-----------------------	--------------	----------------------------------	---------------	-----------------------	------------------

(6)ウッドショックをうけて、今後の木材の市況の見通し及び対応をどうお考えですか。ご意見があればお書き下さい。

--

6 森林認証、クリーンウッド法について 会社経営の観点から回答ください。

想定回答者: 渉外・総務担当(窓口)

(1)令和5年5月に公布されたクリーンウッド法の改正内容をご存じですか？

☐ よく理解している

☒ 概要は知っている

☐ あまりよく知らない

(2)クリーンウッド法に対して、今後どのような対応をしていく方針ですか？

☐ 全ての資材の合法性を確認

☒ 顧客要望があった場合に合法性を確認

☐ 特に対応しない。

(3) 構造材・羽柄材・下地材・内装材のうち、**森林認証材**(※6)の購入割合(材積比率)

10

%

(4) 脱炭素社会、カーボンニュートラルに国産材が貢献していることを認識していますか？

☒ いる

☐ いない

(5)SDGsの取組みとして国産材利用を推進していますか？

☒ いる

☐ いない

(6)持続可能な観点から再造林が担保されている木材の利用を意識していますか？

☒ いる

☐ いない

(7)森林認証、クリーンウッド法について、ご意見があればお書きください。

※6: 森林認証材とは、FSC、SGEC、PEFCなどの団体が認証した木材をいう。

7 非住宅について

想定回答者: 設計担当

令和5年度に貴社が建設された非住宅の建築物について、供給実績をご記入ください。
なお、令和5年度に貴社が建設された非住宅木造建築物がある場合には、別途使用木質材料の国産材比率の調査を行いたいと考えています。そのための基礎調査となります。

(1) 令和5年度非住宅建築物供給実績

	件数						合計面積	
	うち、純木造建築物の件数		うち、混構造(※7)建築物の件数					
事務所	1	件	1	件		件	200	m ²
店舗	2	件	1	件	1	件	180	m ²
工場・作業所・倉庫		件		件		件		m ²
学校校舎		件		件		件		m ²
幼稚園・保育所	1	件		件	1	件	240	m ²
寄宿舎		件		件		件		m ²
福祉施設		件		件		件		m ²
病院		件		件		件		m ²
その他		件		件		件		m ²
合計		件		件		件		m ²

(2)一昨年(令和4年度)と比較して非住宅物件は増えましたか

増えた

☒

減った

☐

※7: 木造とその他構造との混構造。
木質化は含みません。

(3)非住宅における木材利用を伸ばすためには、どのようなことが必要だとお考えですか。

(3)非住宅における木材利用を伸ばすために必要な点 (複数回答可)	☐	①木材の安定調達(量)	☐	⑦木材利用の意義・メリットの訴求
	☒	②木材の安定調達(納期)	☒	⑧RC造、S造とのコスト比較の情報
	☒	③木造の構造設計への習得・習熟	☐	⑨木造建築のカーボンニュートラルへの貢献(LCA等)
	☒	④木造の耐火・防火設計への習得・習熟	☐	⑩木造建築物のコストダウン
	☐	⑤木造建築の設計・加工・施工者の充実	☐	⑪補助金制度の活用
	☐	⑥木造建築事例の情報提供	☐	⑫その他 ()